

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
観光コミュニケーション論演習					
■ ■ 講義題目					
■ ■ 責任教員 (所属)					
山田 義裕 (大学院メディア・コミュニケーション研究院)					
■ ■ 担当教員 (所属)					
山田 義裕 (大学院メディア・コミュニケーション研究院)					
■ ■ 科目種別				■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2019	■ ■ 期間	2 学期	■ ■ 時間割番号	083292
■ ■ 授業形態		■ ■ 単位数	2	■ ■ 対象年次	1~
■ ■ 対象学科・クラス	国際広報メディア・観光学専攻			■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	IMC_MCTS 6410				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
IMC_MCTS	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
6	大学院 (修士・専門職) 専門科目 (発展的な内容の科目、研究指導科目)				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
4	観光創造研究コース専門科目				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
1	交流共創専門科目				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					

■ ■ キーワード

対面コミュニケーション、オンライン・コミュニケーション、コミュニティ、共在、共感、コンヴィヴィアリティ、偶有性、ホスト・ゲスト関係

■ ■ 授業の目標

この授業の目標は、観光におけるホスト・ゲスト関係を含む他者関係全般について、共在の場での対人コミュニケーションとオンラインでの遠隔コミュニケーションの2つの観点から理解を深めることです。インターネットの普及による情報化の進展、特にWeb2.0以降のオンラインでのn対nコミュニケーションの活発化がどのような観光行動を誘発しているのか、またそれが対面相互行為の様式や他者関係のあり方にどのように影響を及ぼしているのかについて理論的に考察するための知見を習得します。

この演習の具体的な目的は次の三つです。

第一の目的は、私たち人間のコミュニケーションの基本的特性について、認知科学の観点から考察することです。特に、自己認識や他者への共感 (empathy) について、最新の研究成果を踏まえて理解を深めます。

第二の目的は、社会学分野のコミュニケーション関連の基本的研究を参照し、メディアの発達が私たちの相互行為や他者関係にどのように影響を及ぼしているのかについて理解することです。

第三の目的は、観光の場での他者関係（ホスト・ゲスト）の変化を踏まえて、新たなコミュニティのあり方について考察することです。

到達目標

- ・人間のコミュニケーションの基本的特性について、自己認識や共感の発達プロセスを踏まえて理解すること。
- ・メディアの発達が私たちのコミュニケーション様式や他者関係にどのように影響を及ぼしているのかについて理解すること。
- ・ソーシャルメディア等のメディアに誘発される新たな観光の可能性について具体的に検討し、それに基づき今後の他者関係やコミュニティのあり方について考察するきっかけをつかむこと。

授業計画

この授業の構成は、授業の目的に対応した形で、大きく以下の三つのセクションに分かれています。各セクションのはじめに、教員がそのセクションで扱うトピックについてレクチャーし参考文献を紹介し、その後、受講生で手分けして文献レビューを行い、全員で議論を通じて理解を深めます。

<第1セクション：自己認識、共感、コミュニケーション>（1～5回）

乳幼児の発達心理学、動物行動学、認知科学等の研究分野の先行研究を踏まえて、人間のコミュニケーションの特性について議論します。一般向けに分かりやすく書かれた子安（2000）や下條（1988）等を手引きに、最新の研究成果も視野に入れて理解を深めます。

<第2セクション：他者論、相互行為論、メディア論>（6～10回）

社会学分野の他者論、相互行為論、コミュニケーション研究等の分野の基礎研究を（ゴフマンの相互行為論、ミードの自我発達論等）踏まえて、近代から現代にかけてのメディアの発達が私たちのコミュニケーション様式や他者関係にどのような影響を及ぼしているのかを考えます。具体的には、メイロウィッツのTVメディアの研究を出発点に、インターネットの誕生からソーシャルメディア普及後の最近の社会現象に関する研究までを対象に考察します。

<第3セクション：コミュニケーション様式の変容と観光の新たな方向>（10～15回）

第1セクションと第2セクションの考察に基づいて、コミュニケーション様式や他者関係のあり方の変化が観光現象にどのように影響を及ぼすのか、観光の場での他者関係（ホスト・ゲスト）の変化を踏まえた新たなコミュニティのあり方とはどのようなものか等の一般的課題を念頭に、受講生が独自の具体的テーマを設定し研究発表を行います。

各発表について二名のディスカッサントをあらかじめ決めておき、発表のあとディスカッサントを中心に受講生全員でその日のトピックについて議論し理解を深めていく予定です。この発表に基づいて、学期末レポートを書いてもらいます。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量

各授業に先立って、必要な準備作業をお伝えします。

成績評価の基準と方法

授業への参加態度、学期末レポートに基づき評価します。評価の割合は以下の通りです。

授業への参加態度（発言の積極性等）：40%

プレゼンテーション：30%

学期末レポート（4000字程度）：30%

テキスト・教科書

講義指定図書

参照ホームページ

■ ■ 研究室のホームページ

■ ■ 備考

■ ■ 更新日時

2019/01/23 14:24:40